

# 令和5年度 市政アンケート調査 第3回結果報告(概要版)

## 1. 市政アンケート調査の概要

- (1) 目的
- ①本市の施策や事業に関するアンケートを実施し、施策推進のための参考とする。
  - ②アンケート調査を通じ、市民の市政への関心や理解を深める。
- (2) 調査対象者
- 福岡市内に居住する満18歳以上の市民647人(就任時)
- ①選考方法:住民基本台帳から無作為に抽出した市民の中から承諾を得て依頼
  - ②任期 : 令和5年4月5日から令和6年3月31日まで
- (3) 調査方法
- 【案内:郵送・メール、回答:郵送・インターネット】
- (4) 調査主体
- 福岡市 市長室 広聴課

## 2. 第3回調査の概要

- (1) 調査時期
- 令和5年7月25日から8月8日まで
- (2) 調査対象者数
- 640人
- (3) 回答者数
- 543人
- (4) 有効回答率
- 84.8%
- (5) 調査テーマ
- ①「福岡市の広報活動」について
  - ②「情報通信の利用状況」について
  - ③「モラル・マナー」と「自転車安全利用」について
  - ④「再犯の防止」について

## 3. 注意点

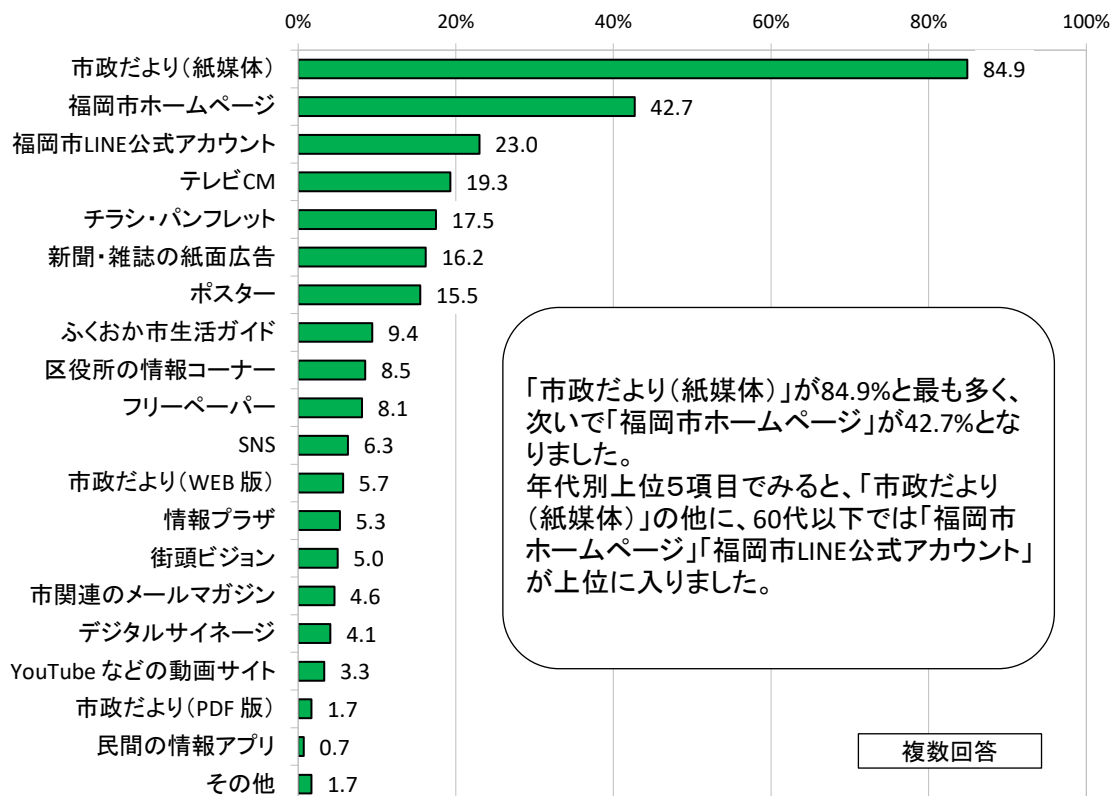
- (1) 各設問の母数(調査の元になる数)は、(N=)または(n=)で表記しています。ただし、グラフ中に特に表記がないものについての母数は、各テーマ横にある(N=)の数字となります。
- (2) 小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合もあります。
- (3) 複数回答ができる設問では、回答率の合計が100%を超えることがあります。
- (4) 今回の調査結果の詳細についてのお問い合わせは、各事業の所管課にお願いします。

# ①「福岡市の広報活動」について(N=543)

※『 』は2つ以上の選択肢を合計して表したものの

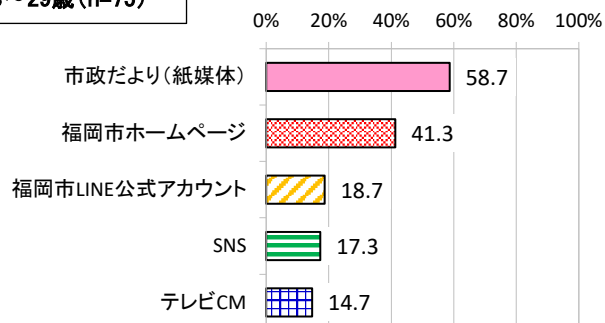
例:『満足』=「満足している」+「どちらかといえば満足している」

## ≪ 市政情報を得るために利用したことがある広報媒体 ≫

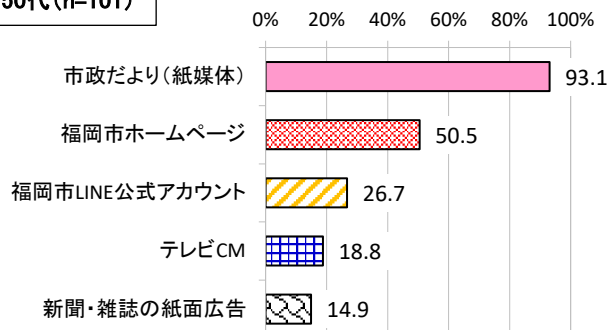


## ◆年代別上位5項目

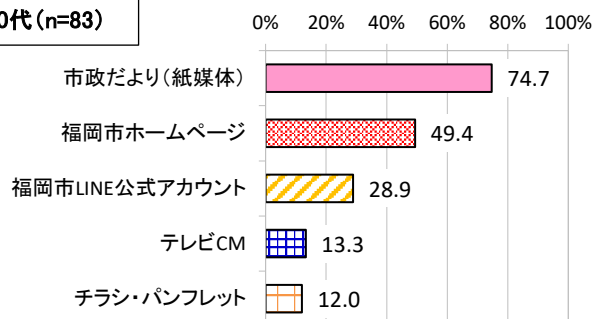
18～29歳 (n=75)



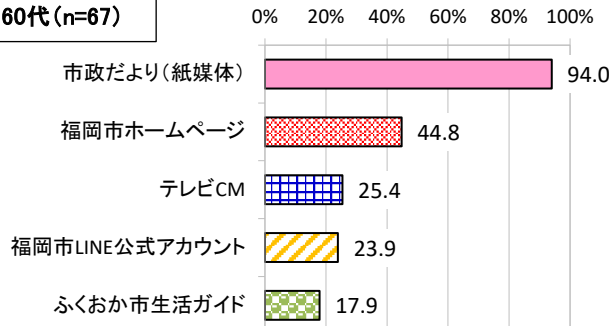
50代 (n=101)



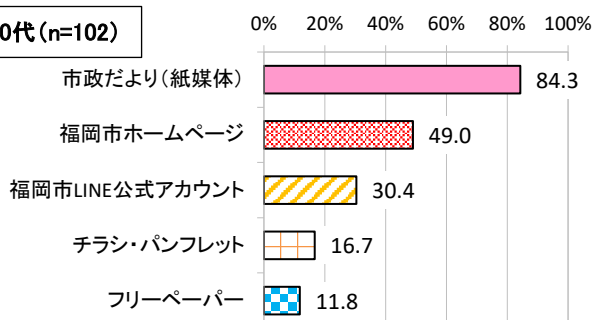
30代 (n=83)



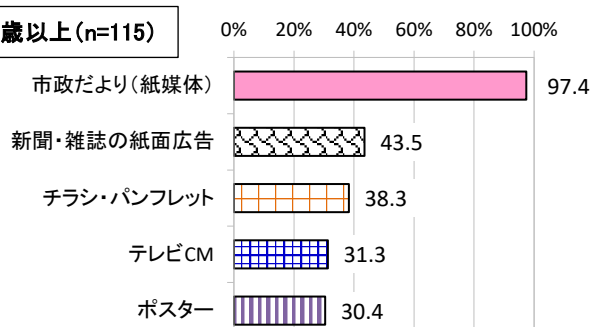
60代 (n=67)



40代 (n=102)

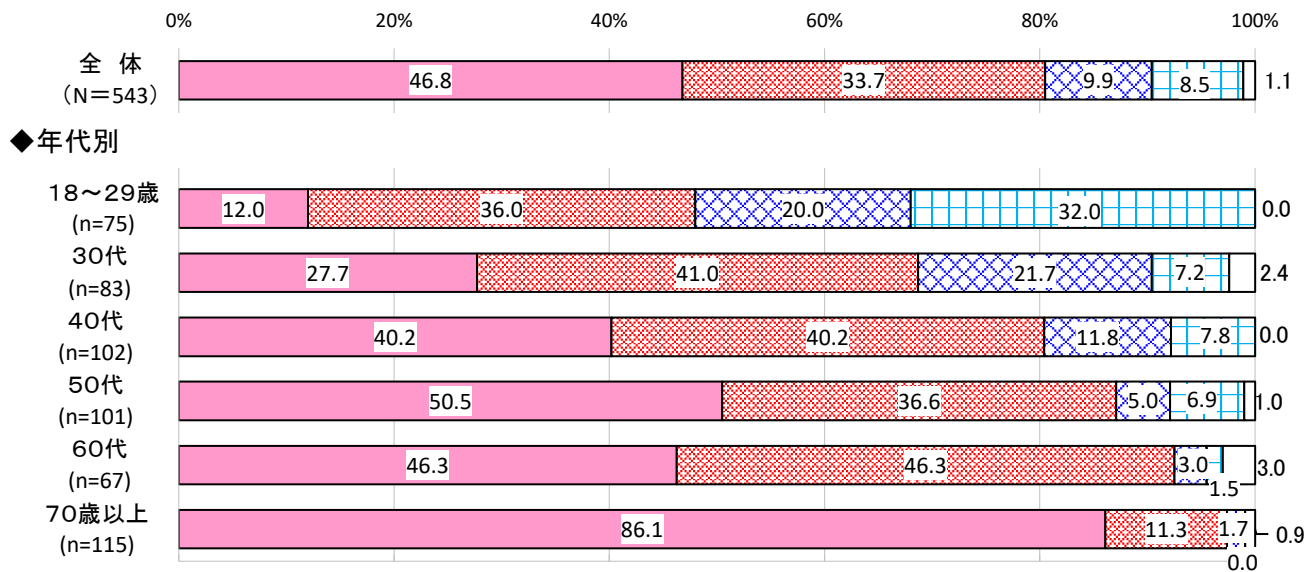


70歳以上 (n=115)



## ≪ 市政だより(紙媒体)を読む頻度 ≫

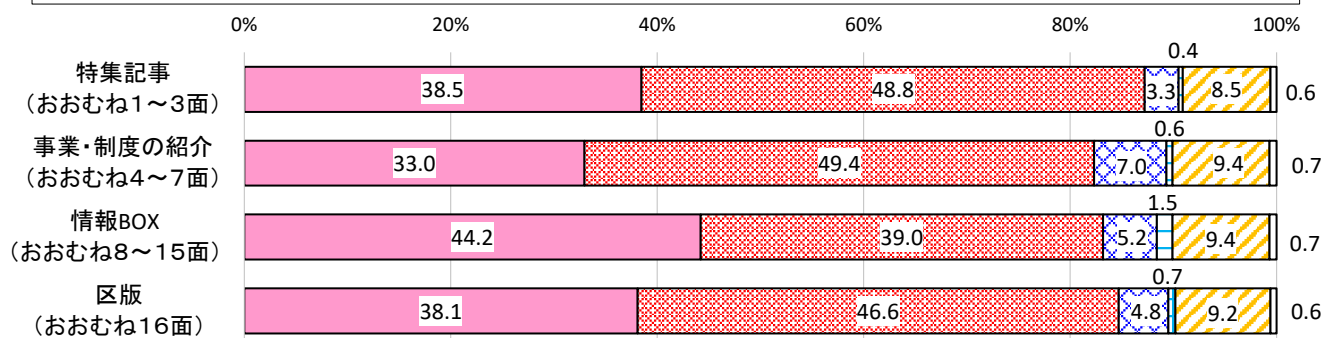
毎号 読んでいる    たまに 読んでいる    ほとんど 読んでいない    全く 読んでいない    無回答



「毎号読んでいる」と回答した方は全体の46.8%となりました。年代別にみると、概ね年代が上がるにつれて、「毎号読んでいる」と回答した方の割合が高くなっています。

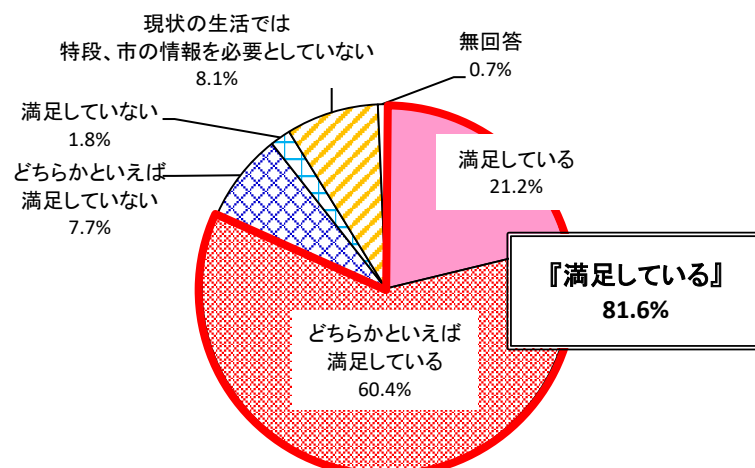
## ≪ 市政だよりの各記事は役に立つか ≫

役に立つ    どちらかといえば 役に立つ    どちらかといえば 役に立たない    役に立たない    読まないのかわからない    無回答



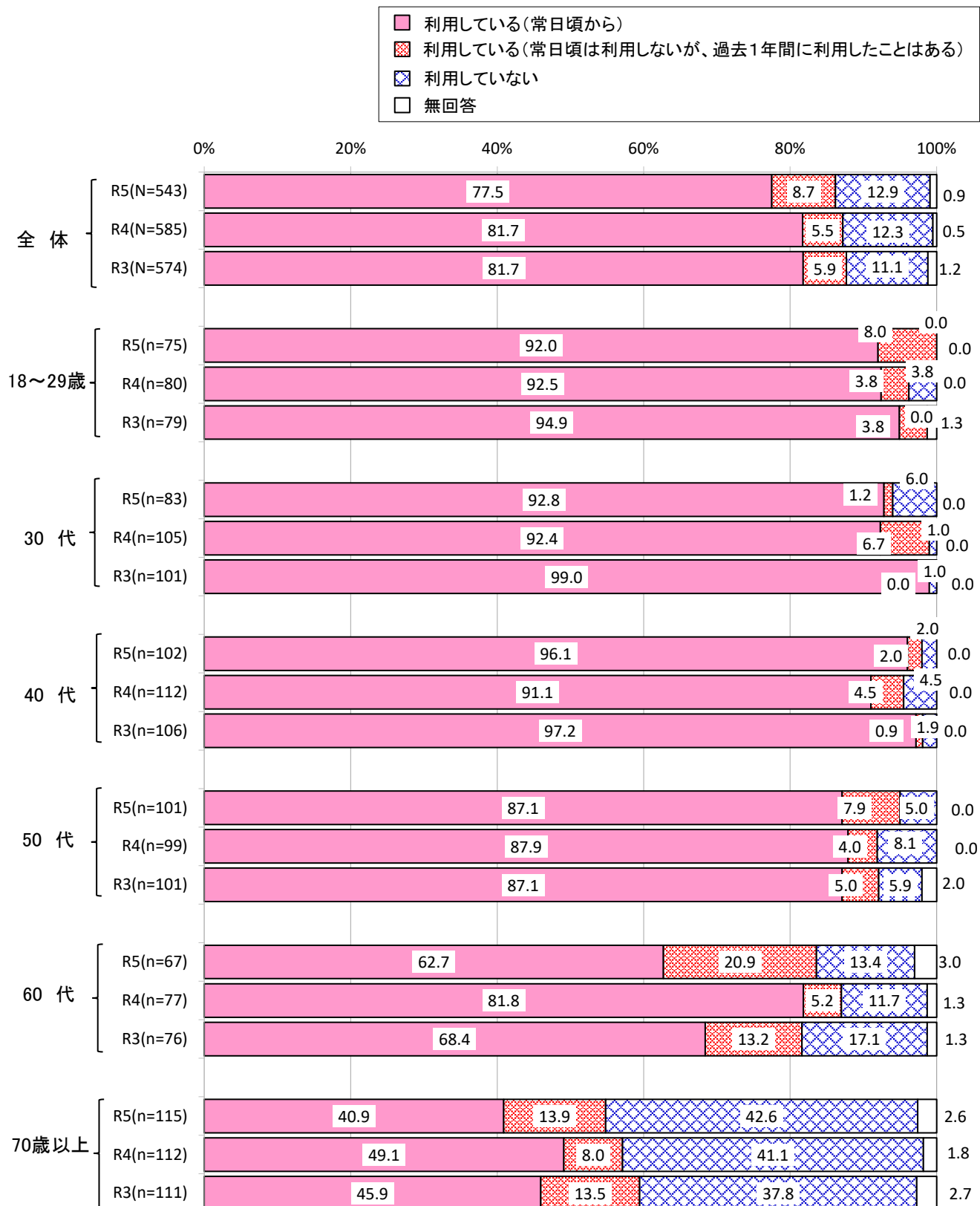
『役に立つ』と回答した方は「特集記事」で87.3%と最も多く、次いで、「区版」で84.7%という結果になりました。

## ≪ 福岡市の情報発信に対する総合的な満足度 ≫



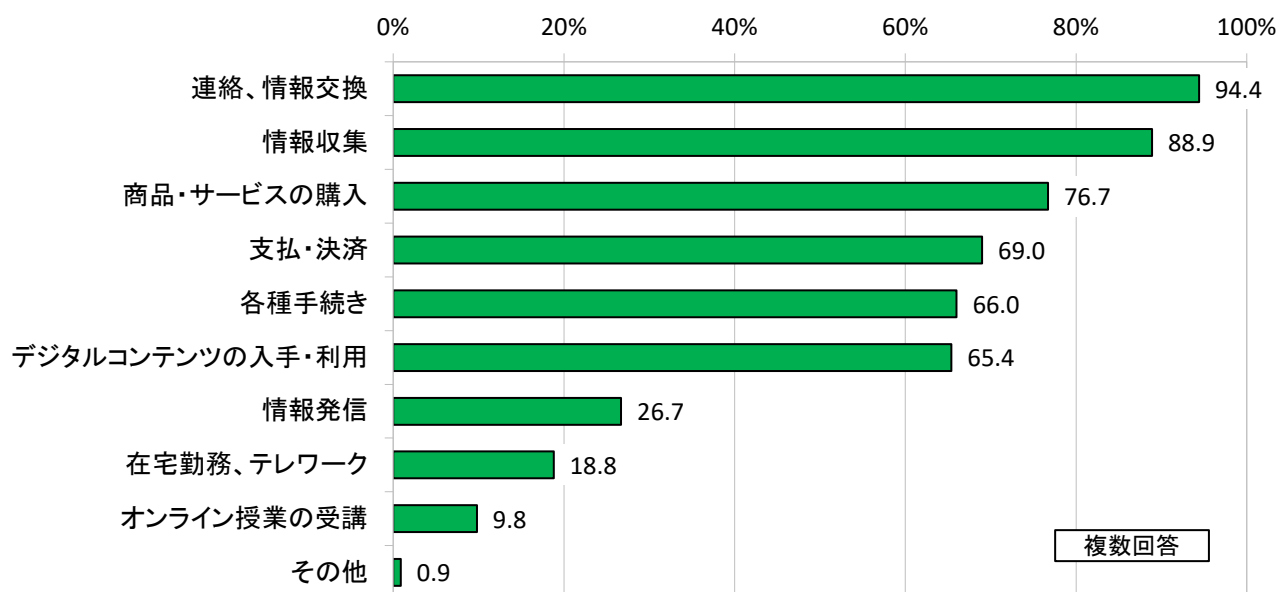
## ②「情報通信の利用状況」について(N=543)

### 《インターネットの利用状況》年代別(過去3年間の調査と比較)



過去3年間の調査から、全体で85.0%以上の方が、インターネットを『利用している』ことがわかります。

## 《インターネットの利用目的》 ※『利用している』方が回答(n=468)

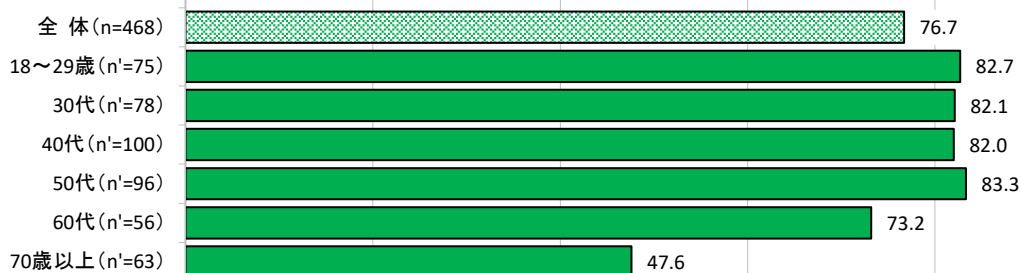


### ◆年代別(一部抜粋)

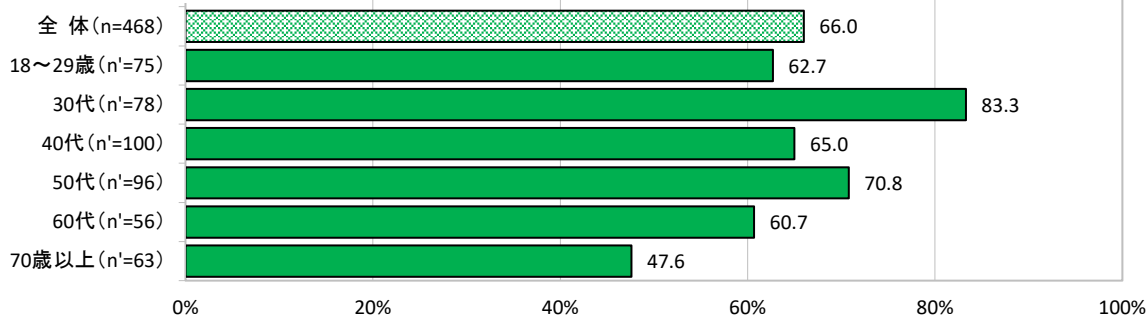
#### ■情報収集



#### ■商品・サービスの購入

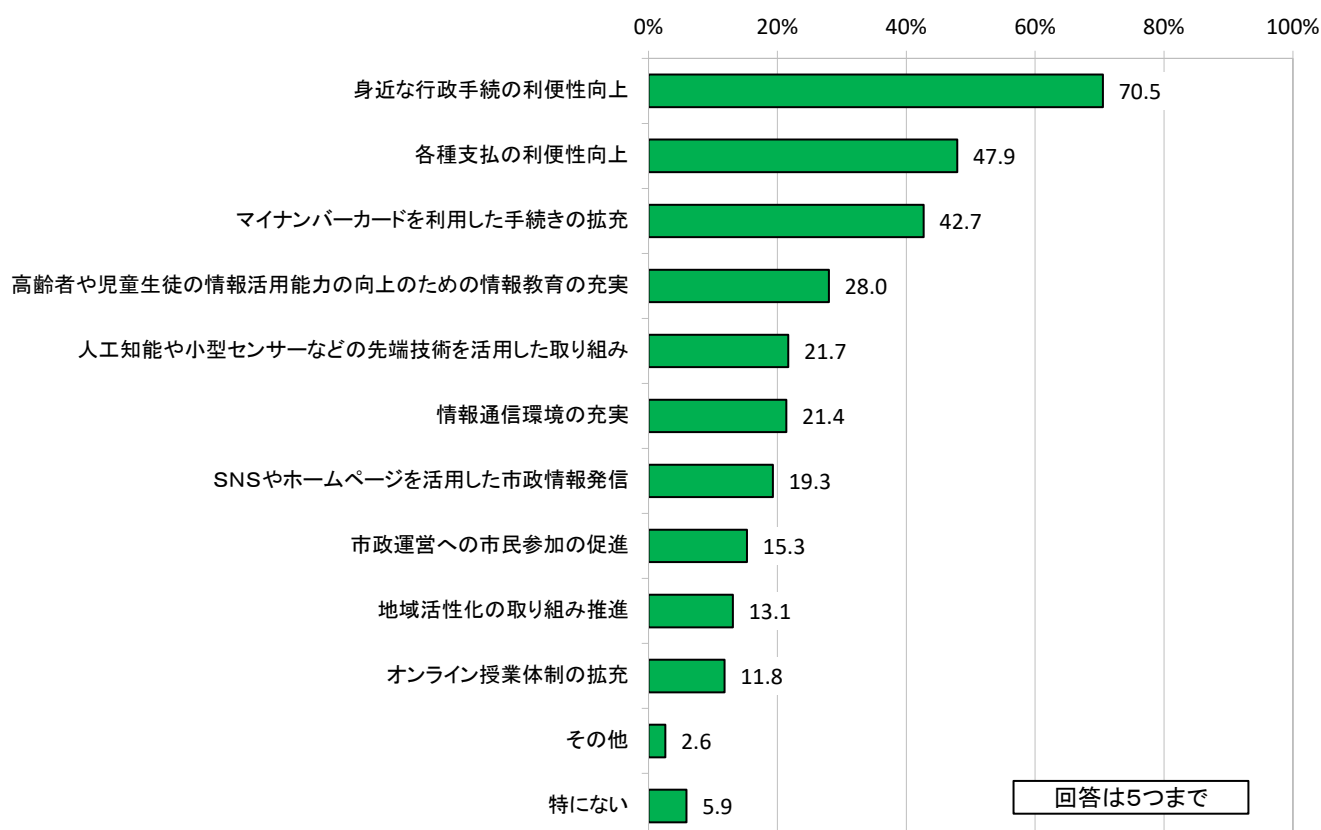


#### ■各種手続き



年代別にみると、「情報収集」はいずれの年代においても8割を超える結果となりました。「商品・サービスの購入」では50代が83.3%、「各種手続き」では30代が83.3%と最も高い割合となりました。

## 《今後期待する福岡市のインターネットを利用した情報化の取り組み》

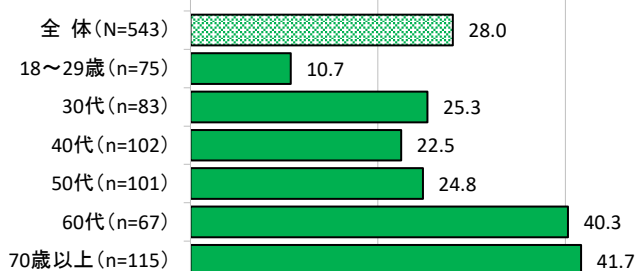


### ◆年代別（一部抜粋）

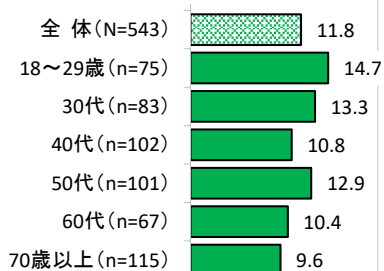
#### ■身近な行政手続の利便性向上



#### ■高齢者や児童生徒の情報活用能力の向上のための情報教育の充実



#### ■オンライン授業体制の拡充



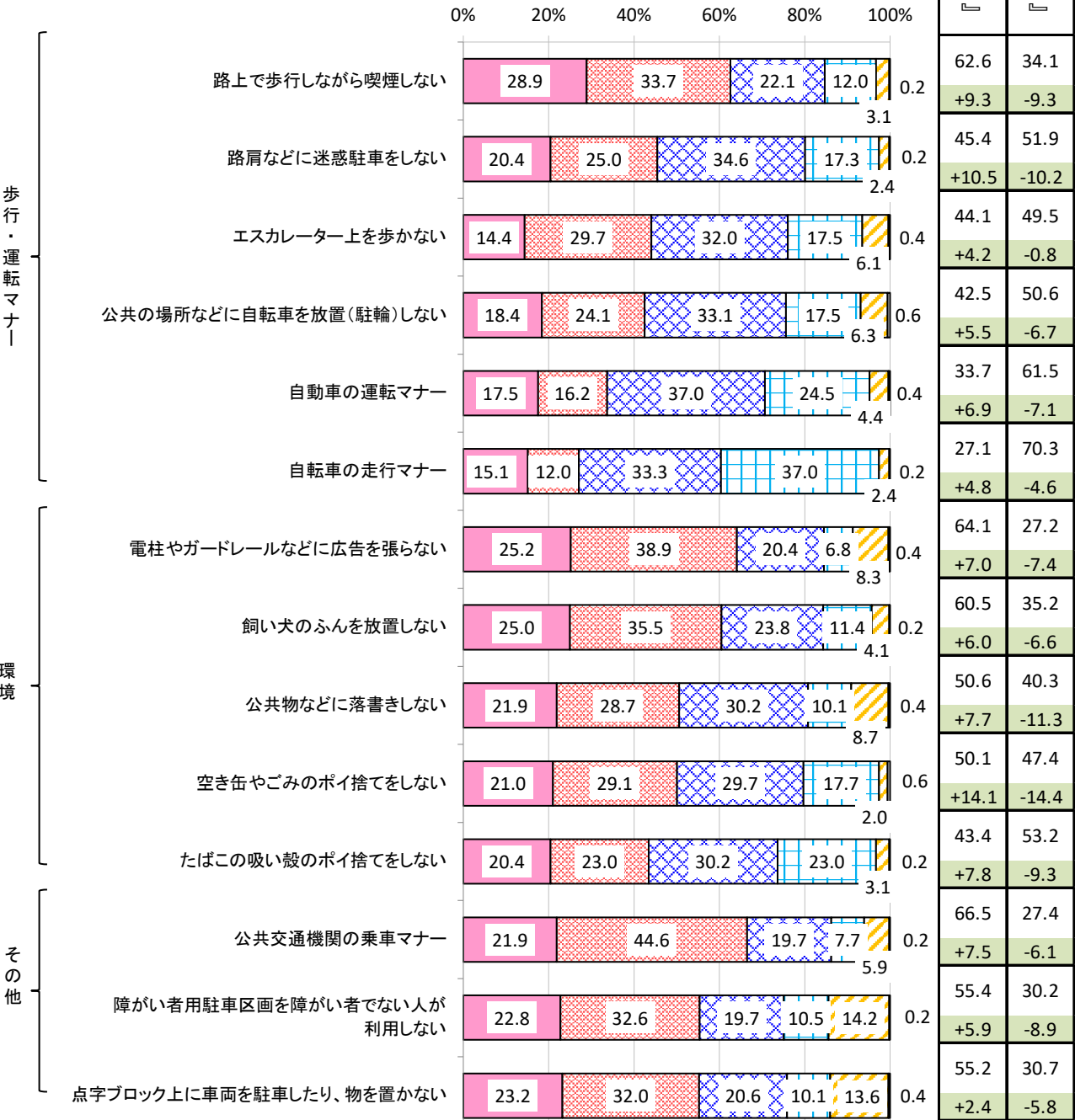
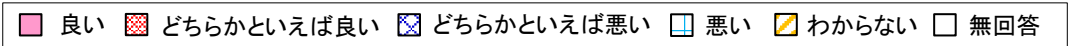
年代別にみると、「身近な行政手続の利便性向上」は、いずれの年代においても5割を超える結果となりました。  
「高齢者や児童生徒の情報活用能力の向上のための情報教育の充実」は、70歳以上の割合が最も高くなっています。  
「オンライン授業体制の拡充」は、18歳～29歳が14.7%で、最も高い割合となりました。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

③「モラル・マナー」と「自転車安全利用」について(N=543)

《福岡市のモラル・マナーの現状》

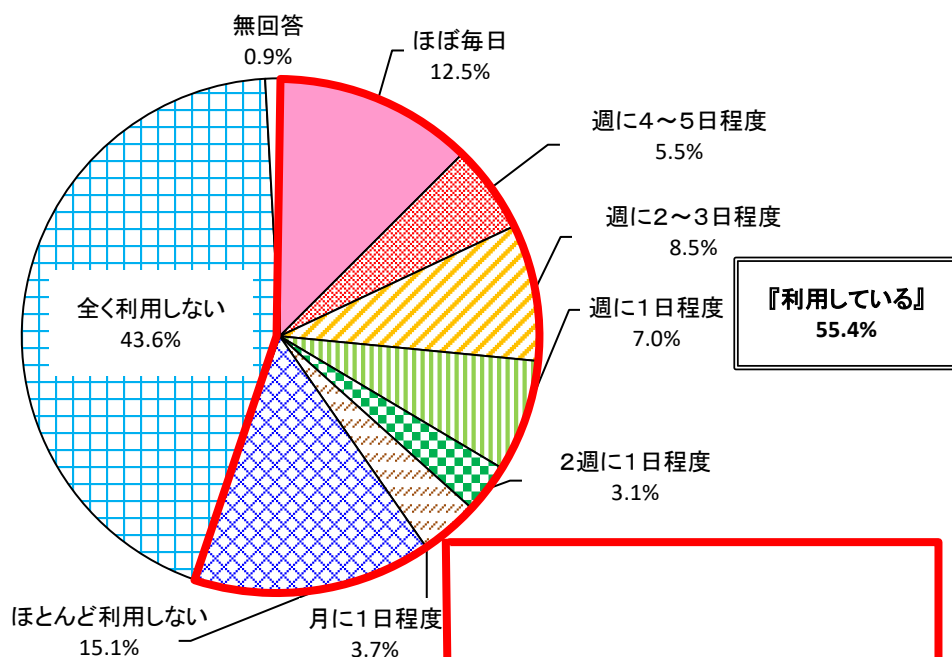
下段：令和3年度とのポイント差



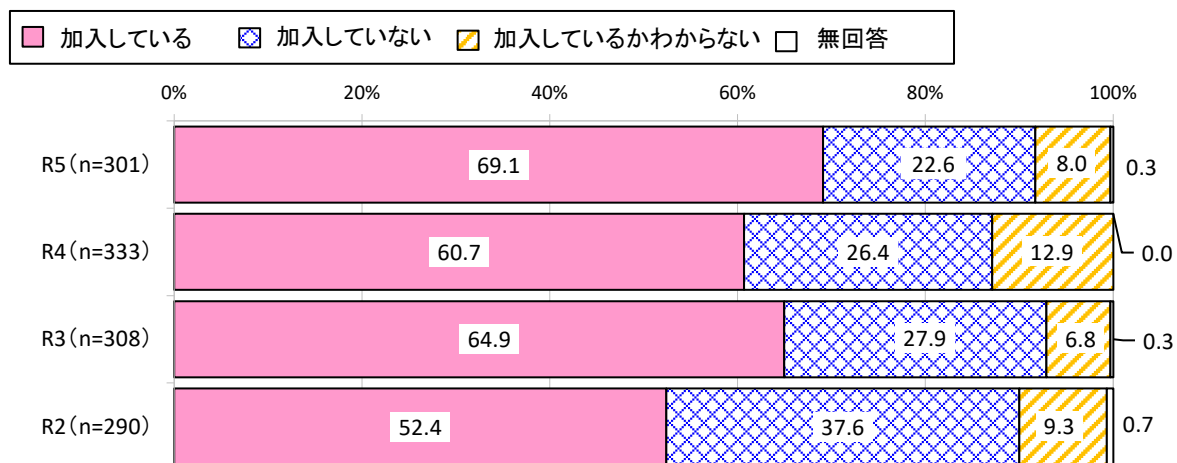
『良い』と回答した方は「公共交通機関の乗車マナー」で66.5%と最も多く、『悪い』と回答した方は「自転車の走行マナー」で70.3%と最も多くなりました。

『良い』の数値を令和3年度と比較すると、「空き缶やごみのポイ捨てをしない」が最も大きく改善しており(+14.1ポイント)、次いで「路肩などに迷惑駐車をしない」(+10.5ポイント)、「路上で歩行しながら喫煙しない」(+9.3ポイント)となっています。

## 《自転車の利用頻度》

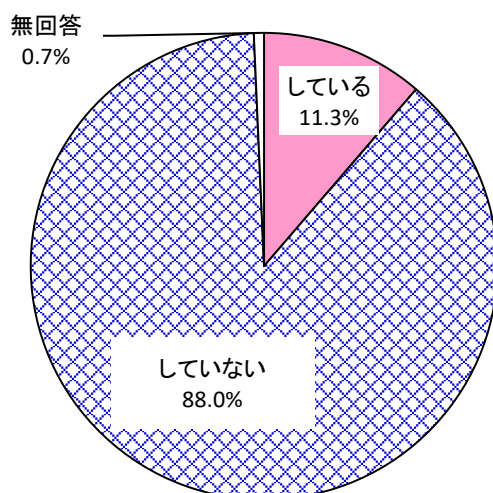


## 《自転車損害賠償保険等の加入状況》（過去調査との比較）



自転車を『利用している』方のうち、69.1%が加入しています。

## 《ヘルメット着用状況》（n=301）

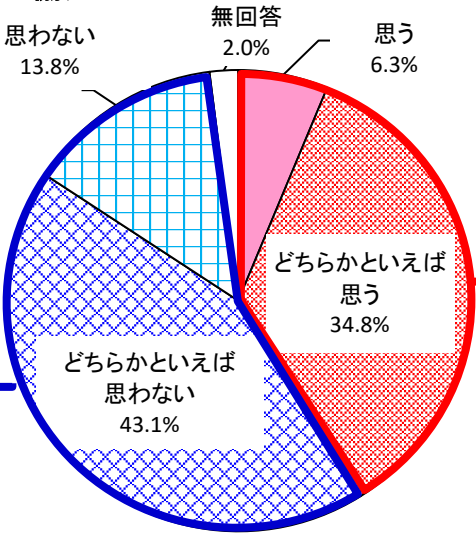


※道路交通法の改正により、令和5年4月1日からすべての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となりました。

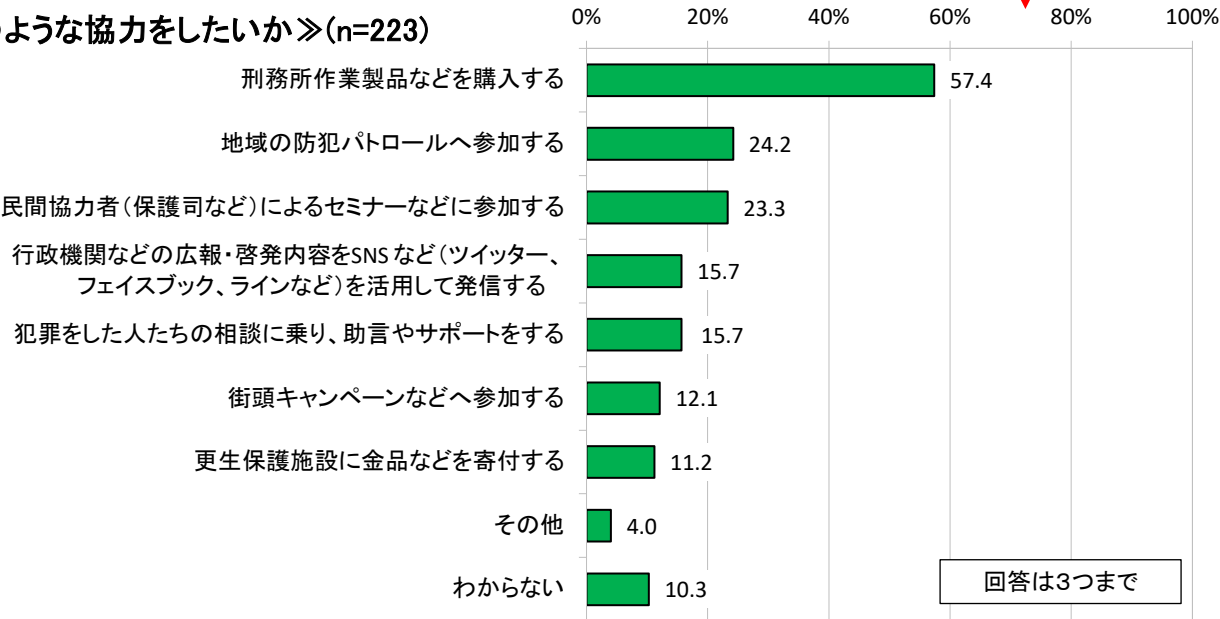


④「再犯の防止」について(N=543)

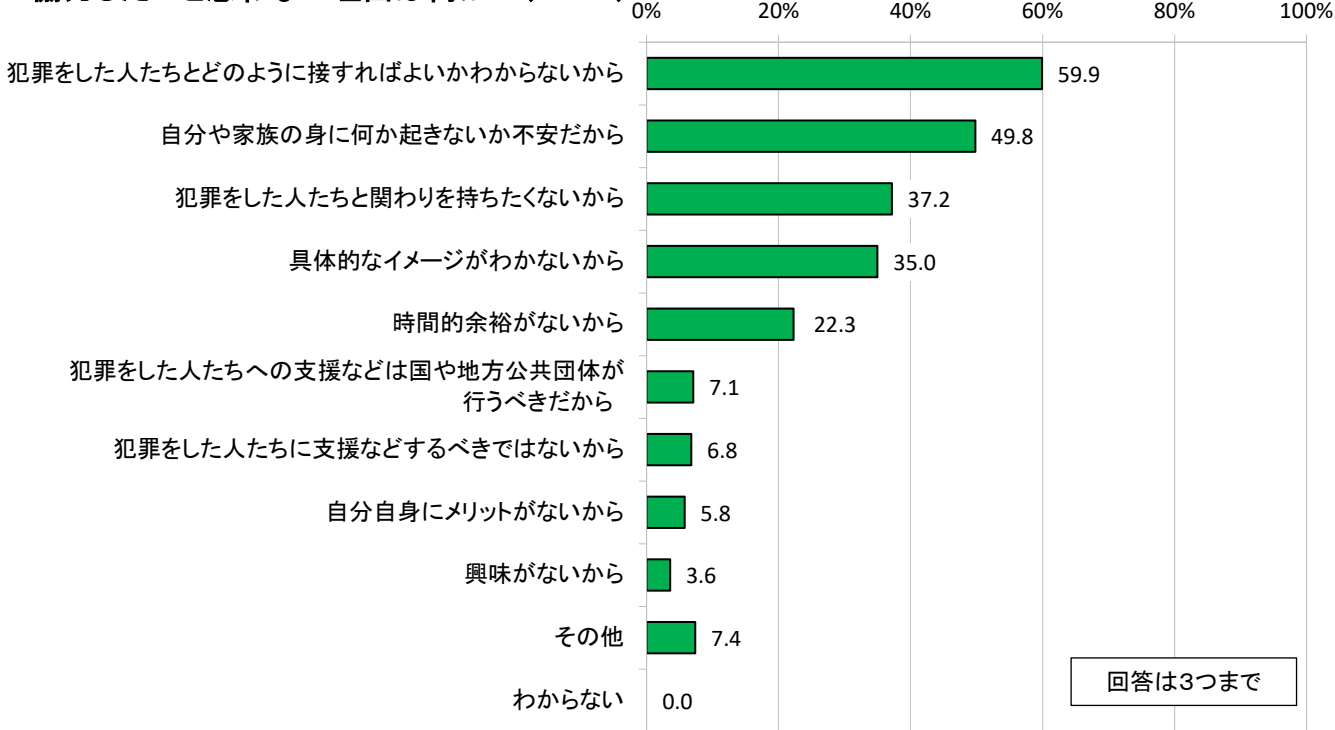
《犯罪をした人たちの立ち直りに協力したいか》



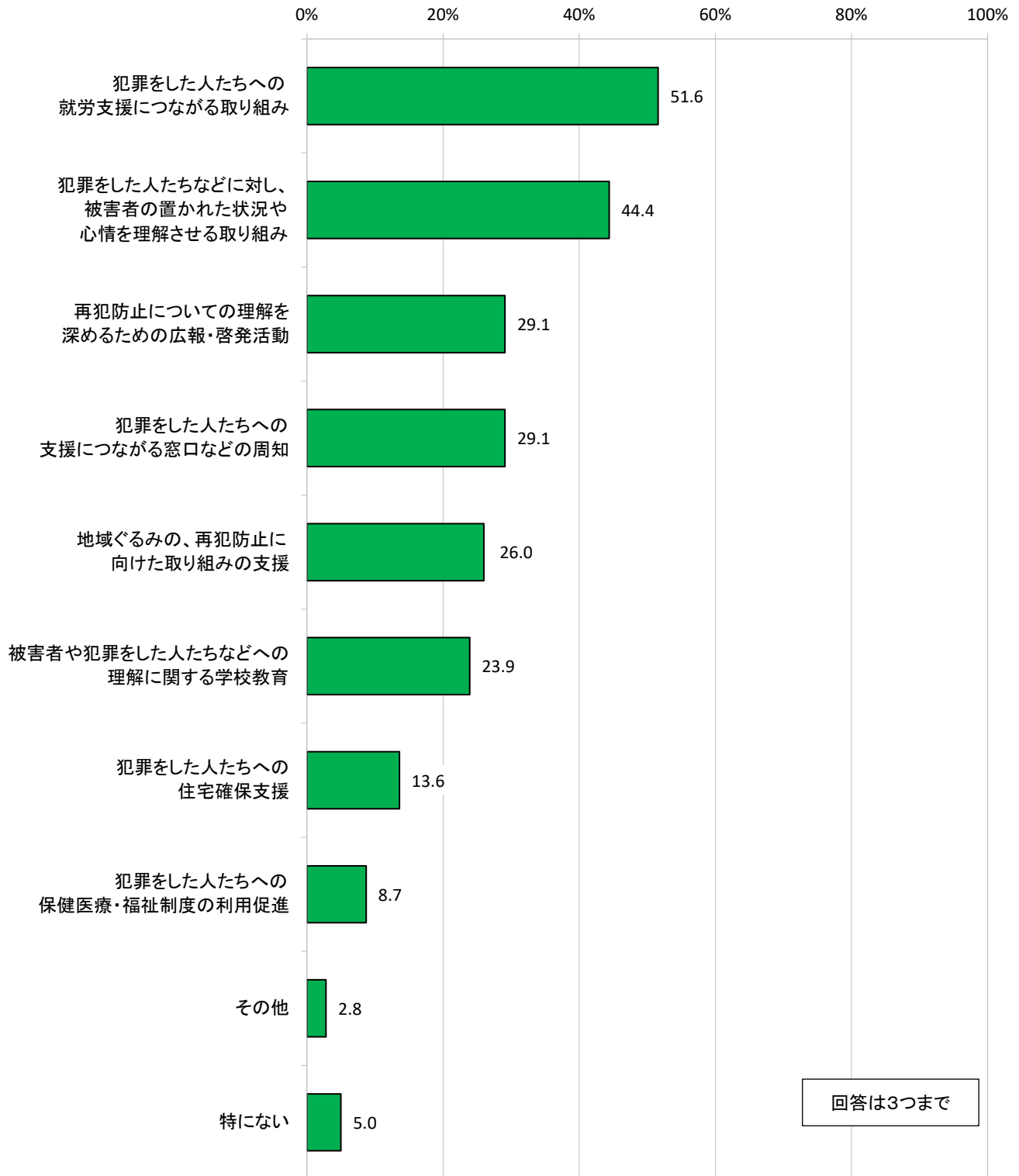
《どのような協力をしたいか》(n=223)



《協力したいと思わない理由は何か》(n=309)



《今後福岡市は、再犯防止のためにどのようなことに力をいれていくべきか》



「犯罪をした人たちへの就労支援につながる取り組み」と回答した方が51.6%と最も多く、次いで「犯罪をした人たちなどに対し、被害者の置かれた状況や心情を理解させる取り組み」が44.4%となりました。